

# こどもとしょかん

## ニュース

H25・9・10月号 No.340



月

よぞら み おお つき  
夜空を見あげると、大きな、まあるい月。  
しゅうぶん ひ ちか ころ まんげつ ひか ひょうめん  
秋分の日に近い頃の満月は、ひときわ明るく光り、表面も  
くつきり見え、「中秋の名月」として知られています。



むかし つき み ひ かぞ つき つき つき  
昔は、月の満ちかけで日を数えていたように、月は、とても身近かな星です。  
そんな月についての本を紹介します。



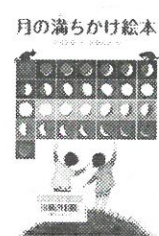
じんるい ゆいいつたす つき ほし  
人類が唯一訪ねたことのある月とは、いったいどんな星なのでしょう。  
つき み つき ひょうめん もよう しお み ひ つき  
月の満ちかけ、月の表面の模様がうさぎのかたちに見えるわけ、潮の満ち干と月  
との関係、月食、お月見のことなど、写真や絵を使い説明されています。



「月のかがく」  
渡部潤一 / 監修  
えびなみつる / 絵と文  
中西昭雄 / 写真  
旬報社 441



「月と太陽ってどんな星？」  
もっとも身近で不思議な  
星を科学しよう  
縣 秀彦 / 著  
誠文堂新光社 447



「月の満ちかけ絵本」  
大枝史郎 / 文  
佐藤みき / 絵  
あすなろ書房 444



「日食・月食のみつ」  
おいしいお月見(もったのしく夜空の話)  
関口 シュン / 絵・文  
木村直人 / 監修  
子どもの未来社 Eニ



「わたしはガリレオ」  
ボニー・クリステンセン / 作  
渋谷弘子 / 訳  
さ・え・ら書房 E7

つき ひょうめん ちきゅう おな やま たに はっけん きんたいかがく ちち よ  
月の表面には地球と同じく山や谷があることを発見したのは、「近代科学の父」と呼ばれる  
イタリアの人ガリレオです。彼は、自分で作った望遠鏡で月を観察し、くわしくスケッチしました。



つき わたし みち ふしぎ ほし つき ものがたり  
月は、私たちにとって、とても身近かで、不思議な星。それだけに月にちなんだ物語もたく  
さんあります。いろいろ読んでみたら、おもしろいですよ。



「はなしたよ」  
フランク・アッシュ / 文  
山口文生 / やく  
評論社 Eホ  
お月さまに語りかけ  
るクマくんの姿が、  
ほほえましい。



「かぐや姫」  
(新・講談社の絵本)  
千葉幹夫 / 文・構成  
織田観潮 / 画 講談社  
J726.5  
月の世界からつかわ  
されたかぐや姫は、  
おじいさんとおばあ  
さんと暮らします。



「山いっばいのきんか」  
君島久子 / ぶん  
太田大八 / え  
童話館出版 Eヤ  
ちゅうごく むかしばなしわかも つき  
中国の昔話。若者が月  
夜のぼんに山へ草か  
りに行くと、金貨がい  
っぱいありました。



「たくさんのお月さま」  
ジェームズ・サーバー / 文  
ルイス・スロポドキン / 絵  
なががわちひろ / 訳  
徳間書店 Eタ  
病気になるとお姫様  
を治すために、王様は  
お月さまを手にいれ  
ようと苦しみます。



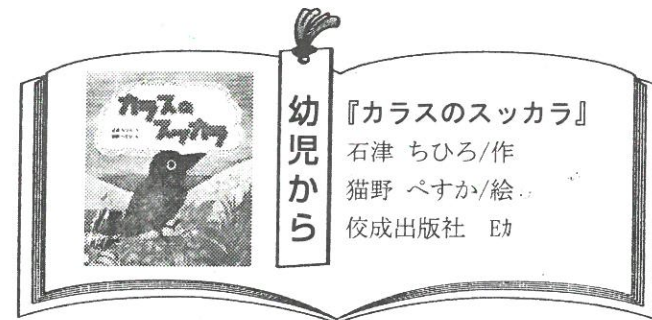
「ぬすまれた月」  
和田 誠 / 作・絵  
岩崎書店 Eヌ  
月が大好きな男は、は  
つごを使って月を持  
って帰りました。物語  
の中で月食など月に  
まつわる現象も紹介。



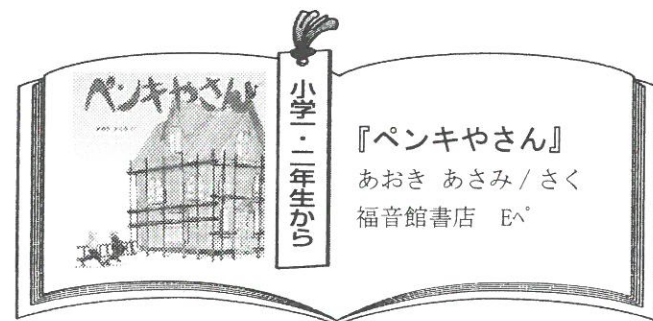
「月はどうしてできたか」  
「グリム童話より」  
ジェームズ・リーブズ / 文  
エドワード・アーティナーニ / 絵  
矢川澄子 / 訳 評論社 E7  
4人兄弟が盗んだ月は、  
とうとう聖者のピータ  
ーにおさめられて…



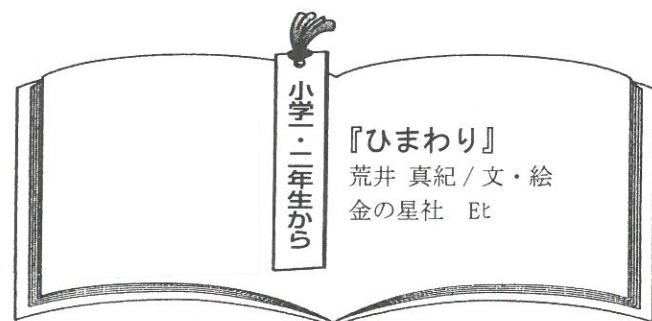
『ぴたっ!』  
あずみ虫 / さく・え  
福音館書店 Eビ



『カラスのスッカラ』  
石津 ちひろ / 作  
猫野 ペすか / 絵  
佼成出版社 Eホ



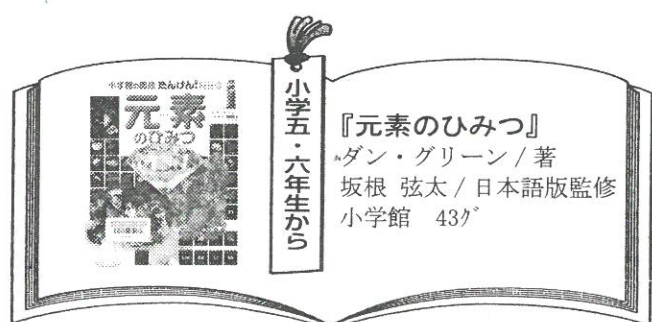
『ペンキやさん』  
あおき あさみ / さく  
福音館書店 Eベ



『ひまわり』  
荒井 真紀 / 文・絵  
金の星社 Eヒ



『旅の絵本 VIII』  
安野 光雅 / 著  
福音館書店 Eフ



『元素のひみつ』  
ダン・グリーン / 著  
坂根 弦太 / 日本語版監修  
小学館 437

## あたらしい本のしょうがい

小学五・六年生から

『アサギをよぶ声』  
森川 成美 / 作 スカイエマ / 絵 偕成社 913EJ

小学五・六年生から

アサギは12歳の少女。女性ではけっしてなれない村の戦士になりたいと思う。「弓の競い合いで技量を示せば戦士になれるかもしれない」とハヤという戦士が教えてくれた。ゴミ捨て場から拾った鹿の角から矢尻を作ることからアサギの修業が始まった。困難に挫折しそうになる。しかしハヤは戦士にとって必要なことはものごとをありのままに見て、何ものにもとらわれずに、その意味を考えることだと教えた。アサギは知恵と努力で進んでゆく。自分にあった弓や矢羽根を用意し、けいこを重ね、ついに、競い合いをむかえる。アサギの夢は果たせるのか？

巻末には「了」とあるが、続編を期待したくなる1冊である。



福岡市総合図書館  
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1 ☎092(852)0600  
ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/>